▒巻　頭　言▒

地方環境研究所の役割

山梨県衛生環境研究所所長　　仲　山　広　江

山梨県は，世界遺産の富士山をはじめ，南アルプス，八ヶ岳，茅が岳と四方を日本有数の高い山々に囲まれており，山紫水明豊かな自然環境に恵まれています。とくにこの秋晴れの時期，高く広がる空の青さは何ともいえず，思わず大きく息を吸いたくなります。そんな感慨に浸れるこの時期を同じくして，ノーベル賞に日本人２人が選ばれたとのうれしいニュースが飛び込んできました。とりわけ本県出身の大村博士が医学・生理学賞を受賞されたことは，山梨初の快挙であることから，報道でも大きく取り上げられ，喜びに沸いております。当研究所も所属している山梨県総合理工学研究機構が本県に設置されておりますが，その初代総長を務めていただいたこともあり，われわれの研究所もより身近に感じているところです。

大村博士の偉大な研究功績については申すまでもありませんが，生まれ育った故郷のすばらしい自然環境を大切にして行きたいとのメッセージを常々発信していらっしゃいます。そこで，博士の思いにつながる？当研究所の取組みの一端を紹介させていただきます。

富士北麓に位置する湖沼「富士五湖」の水質環境を調査するため，毎月１回富士五湖補足調査を続けています。この調査は水質汚濁防止法に定める公共用水域水質調査を補う目的で昭和55年から行われており，栄養塩濃度や溶存酸素濃度等の詳細なデータを蓄積し，湖水保全対策に基礎資料の一つとして活用されています。補足調査を行っている湖沼の一つである西湖で，2010年に田沢湖（秋田県）で絶滅したと思われていたクニマスが生息していたことが専門家により確認されました。これを受けて，関係研究機関が共同して，クニマスの生息調査が実施され，当研究所は水質環境部門の調査を行いました。その結果，水深ごとの水温分布・光量の季節変動が詳細に分析できたことから，クニマスの生息環境が明らかになりつつあります。これらに及ぼす因子の解明など，さらに調査を進め自然環境保全に寄与して行きたいと考えております。この調査研究に関しては，継続して行っていた補足調査のフィールドがたいへん役立ち，こうした事例をいくつか経験すると，とくに環境に係る調査研究においては，基礎研究とともに継続研究の大切さを実感しました。こうしたものから得られた永年のデータ蓄積等は，突発的な環境変化時の対応等にはもっとも重要な基礎資料の一つとなってくるのではないでしょうか。

研究所を取り巻く環境はたいへん厳しくなっており，研究を支える人材育成・確保が思うようにならない現実もありますが，これまで培われた調査研究への志を大切にし，コンパクトな研究所なりに調査研究に取り組み，得られた成果を地域住民の健康や環境保全に還元できるよう研究所の役割を果たして行きたいと考えております。

今年度から関東甲信静支部長を務めさせていただいております。今後ともみなさまのご指導・ご協力をよろしくお願いいたします